

表現：詩の形式を確認しよう

学習ワークシート①

①春暁 孟浩然

春眠不覺曉
 处处聞啼鳥
 夜來風雨聲
 花落知多少

②送元二使安西 王維

渭城朝雨浥輕塵
 客舍青青柳色新
 勸君更盡一杯酒
 西出陽關無故人

③春望 杜甫

國破山河在
 城春草木深
 感時花濺淚
 恨別鳥驚心
 烽火連三月
 家書抵萬金
 白頭搔更短
 渾欲不勝簪

詩の形式の特徴をまとめよう

★字数

- ・「」と「」は（ ）言
- ・「」は（ ）言
- ・「」と「」は（ ）句↓（ ）
- ・「」は（ ）句↓（ ）

※□には①③が入ります。

★音

- ・①は（ ）が似た
- 音を持っている。
- ・②は（ ）が似た
- 音を持っている。
- ・③は（ ）が似た
- 音を持っている。
- ↓五言は（ ）句末に、七言は（ ）句末と（ ）句末に韻を揃える決まりがある。このことを（ ）という。

★対句

- 一句の字数文法構造が同じもの。
- ③の（ ）（ ）（ ）句目と（ ）（ ）（ ）句目が対句になってる。

★他に気づいたことがあれば書こう。

春暁

春、（ ）が来たのも知らずにねむっていたが、
あちらこちらに（ ）のさえずる声が聞こえる。
昨夜は（ ）の音がしていたが、
庭の（ ）はどれくらい散ったことだろうか、
どれほど散ったかわからない。

元二が安西へ使者として行くのを見送る

渭城に朝方降った雨が、細かな土埃をしつとりと湿らせ、
旅館の（ ）に生える（ ）の色は青々と、鮮やかだ。
さあ君、もう一杯この酒を飲み干したまえ、
西の（ ）を出たら、（ ）もないだろうから。

春の眺め

（ ）長安は破壊されたが、（ ）は以前と変わらずに存在し、
（ ）には春が来て、（ ）は、深々と生い茂っている。
このような時勢に心を痛め、咲く花を見ても（ ）がこぼれ、
家族との別れを悲しみ、鳥のさえずりにも私の心は（ ）しま
う。
戦いの（ ）は三月になっても続いており、
（ ）からの手紙は巨万の富に相当する「ほど貴重だ」。
たまらなくなつて（ ）頭を搔けば、抜け落ちて薄くなり、
もはや全く冠をとめる（ ）も挿せなくなりそうである。

表現：「春暁」の訳詩を比較しよう

学習ワークシート③

春暁

ハルノネザメノウツツデ聞ケバ
 トリノナクネデ目ガサメマシタ
 ヨルノアラシニ雨マジリ
 散ツタ木ノ花イカホドバカリ

井伏鱒二 『厄除け詩集』

それぞれの特徴を
 まとめよう。

春あけぼの

春あけぼの うすねむり
 まくらにかよう 鳥の声
 風まじりなる 夜べの雨
 花ちりけんか 庭もせに

土岐善麿 『鶯の卵』

春のあかつき

春、夜明けが来たのも知らずに眠っていた
 が、鳥の声に目を覚ました。昨夜は風雨
 が強かったが、庭の花はどれほど散った
 ことかであろうか、どれほど散ったか
 わからない。

『学習課題集』要点の整理より

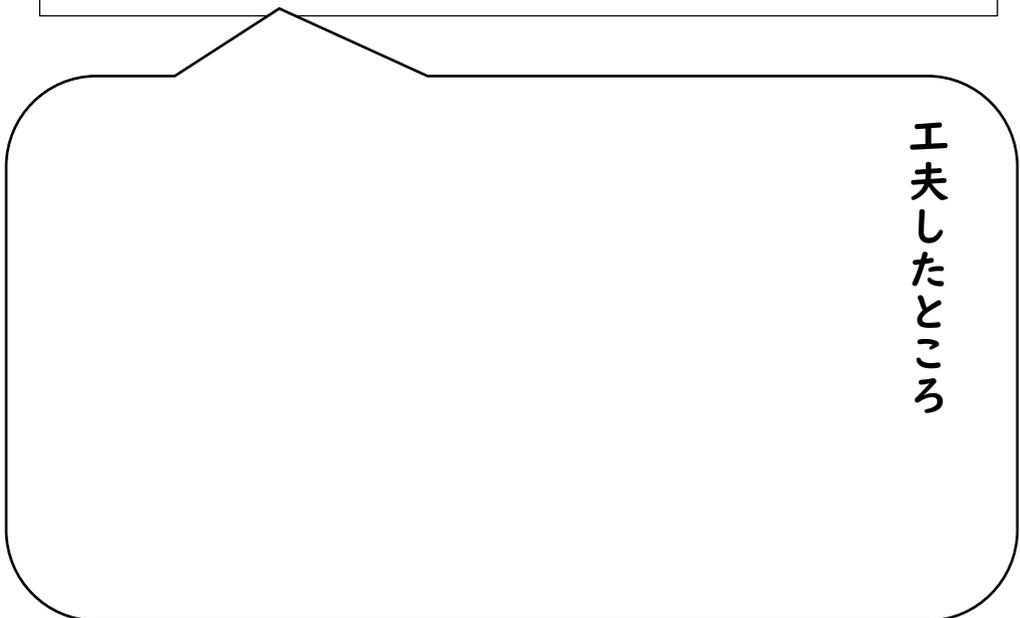
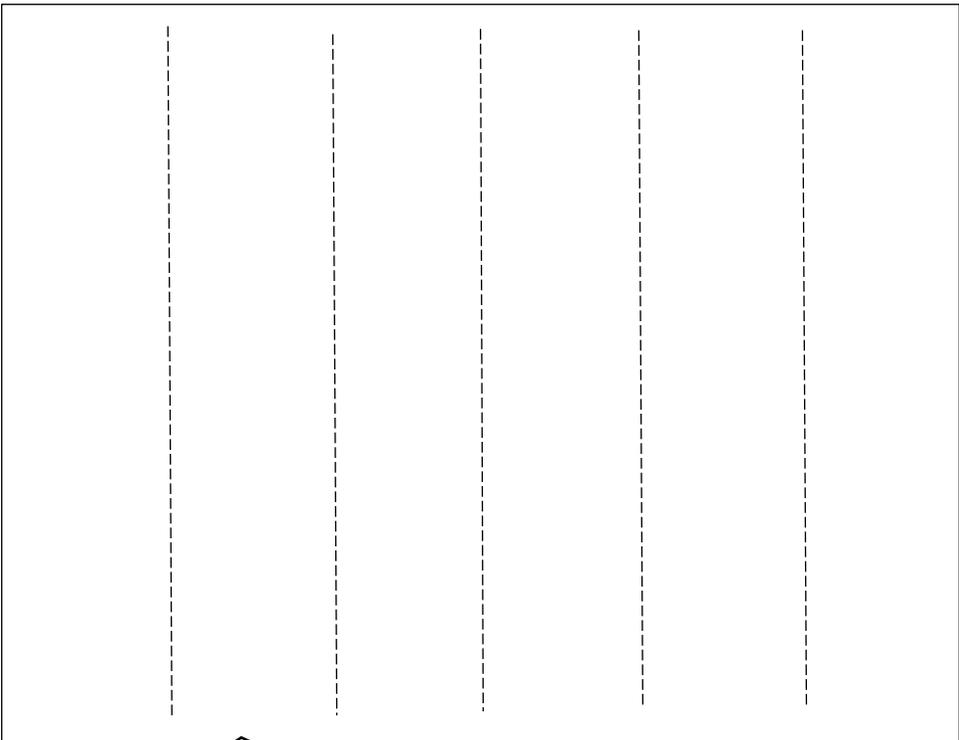
感想

長所			
短所			
その他			

一．どの方法を使う？

井伏鱒二 ・ 土岐善麿 ・ 『学習課題集』

二．「静夜思」の訳を考えてみよう。



工夫したところ

三．周りの人と見比べてみよう。

・よいと思った表現・訳など

※班内で一番上手にできていた人（

）

表現：「静夜思」の訳詩を見てみよう。

学習ワークシート⑤

静夜思

【書き下し訳】

牀前看月光
疑是地上霜
挙頭望山月
低頭思故郷

牀前 月光を看る
疑ふらくは是れ 地上の霜かと
頭を挙げて山月を望み
頭を低れて故郷を思ふ

【訳】

ネマノウチカラ フト気ガツケバ
霜カトオモウ イイ月アカリ
ノキバノ月ヲ ミルニツケ
ザイシヨノコトガ 気ニカカル

井伏鱒二 『厄除け詩集』

床にさす 月かげ
うたがいぬ 霜かと
仰ぎては 山の月を見
うなだれては おもうふるさと

土岐善麿 『新版 鶯の卵』

春のあかつき

寝台の前にさしこんでくる月の光を
ふと地におりた霜かとおもった
頭をあげては山の端の月を眺め
頭をたれてはふるさとのことを思った

武部利男訳 『世界古典文学全集』第二七卷

メモ